

記憶に残る体験・学び ～3年修学旅行～

- 9月4日から6日にかけての2泊3日の日程で、関西方面での修学旅行に行ってきました。中学入学後、集団宿泊教室などの学年単位で校外に出る体験活動が十分にできなかった3年生にとって、貴重な体験ができました。
- 以前は当たり前のように行っていた修学旅行ですが、今回は新型コロナウイルス感染防止対策に向けた細心の注意が必要とされました。加えて台風の影響もあり、様々なケースへの対応を細かく想定しての修学旅行となりました。
- それだけに、目立った事故や病気もなく無事旅行を終え、計画通り熊本に帰れたときは本当にほっとしました。台風の影響はほとんど受けず、想像以上暑かったことを除いて、天候にも恵まれました。「実施できて良かった」と、しみじみ思っているところです。
- 現地に行って、実際に見て、聴いて、触れてからこそ深まる学びがあります。そして、この3日間で、これまで私が知らなかった3年生の姿を改めて目にすることができたこと、また、たくさんの場面で楽しそうな表情を見ることができたことは今でも強く印象に残っています。
- 旅行中にも適応力と成長力を見せた3年生、この体験をどのようにこれからの生活に生かしてくれるのか、大いに期待しているところです。
- 今回の修学旅行は、保護者の方のご協力があったからこそ無事終わることができました。旅行に出発するまでの健康管理、そして事前の抗原検査の実施等、ご家庭のご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。



よりよいクラス・学校へ ～西原村子ども未来会議～

- 以前、「熊本の学び」の研究についてお知らせしましたが、今回新たな取組を始めました。「西原村子ども未来会議」の開催です。
- 「熊本の学び」の大切な柱の一つに、「自分から課題を発見・設定して、その解決に向け自分から取り組む」ことがあります。
- それをよりよいクラス・学校づくりに生かそうとする取組の一つが「西原村子ども未来会議」です。
- 子どもたちがクラスや学校において「安心できる」「落ち着きのある」生活を送れることは、学力にも好影響を与えることが、過去の調査データから明らかになっています。
- 9/12(火)に、西中の生徒会役員から村内小学校の児童会代表に向けて、「自分たちのクラスや学校における課題は何か」「その課題を解決するためにはどうしたらよいか」について各学校で考え、話し合うよう、リモート会議で呼びかけました。
- 自分たちが、自分事として学習面や生活面での改善点を見だし、それを自分たちからいい方向に変えていこうとする主体性を身に付けることにつながっていくことを期待しています。



地域の方から・・・

- 9/15(木)、学校に地域の方から一本のお電話がありました。
- 「朝、登校中の中学生が、道路に飛び出そうとした子どもを危なくないよう助けてくれてとてもありがたかったです」という内容でした。
- 目の前で起こっていることを見逃さず、自分に何ができるのかをとっさに判断して行動に移すことができたことは素晴らしいことです。
- 人のために進んで行動しようとする心と行動力を持った生徒がいることを嬉しく思います。